

「素敵な人」

Ⅱサム6：11-16、20-23

～あなたは素敵（素晴らしく）生きていますか？…でも大丈夫！！～

「あなたって素敵な人ね！！」・・・あなたはどのように人から言われたことがありますか？また誰かに言ったことはありますか。この「素敵」という言葉。よく使う言葉ですが、どういう意味かあなたは知っていますでしょうか。今日はこの「素敵」とは何であるかを考え、私たちが素敵な人となるにはどのようにしたらよいかを聖書に出てくる人々を通してみていきます。

「素敵」とは心を惹かれる様、素晴らしい様をいい、英語では splendid（＝素晴らしい）と約します。しかし、今回のテーマである素敵な人になるには次のことが大切です。それは、その人が自分や他の人には対抗できない、敵わないなにかを持っているということです。その姿を見て追い越すことができないと思うことが、敵わない＝素敵となるからです。

では私たちが敵わない、素敵だと思う人は誰でしょう。一番にはイエス様です。ヨハネ8章に律法学者やパリサイ人が姦淫の現場で捕らえられた女を前に出し、石打ちにすべきかどうかをイエス様に質問したときのこと書かれています。彼らはイエス様を畏にはめようとして質問しました。普通の人なら石打ちにすれば非難され、しないとすれば律法に反し、どちらとも答えられない状況でした。しかし、彼の答えはこうでした。「あなたがたのうちで罪のないものが、最初に彼女に石を投げなさい。」・・・この言葉によって誰ひとり女に石を投げることができず、その場を後にしました。そして最後に残った罪のないイエス様は「わたしもあなたを罪に定めない。行きなさい。今からは決して罪を犯してはなりません」と女に語ります。この言葉によって、女の人生は変えられイエス様に最後まで従う人になりました。それだけでなく、イエス様はそこにいた全ての人、自身を畏にかけようとした人をも救ったのです。イエス様の言葉、行動はどこをとっても素敵です。とても敵わないと思います。しかし、神様は私たちが彼の満ち満ちた身丈にまで成長することを望んでおられます。今あなたの中に、とても彼のようにはなれないなんて思いはありませんか。確かに罪もなく、その行動なにもかかもが格好良いイエス様のようになるのは簡単なことではありません。しかし神さまはあなたに素敵になって欲しいと願っています。では、その身丈に近づくために、もう一人、ダビデをみていきましょう。

Ⅱサム6章で、ダビデは自分の町に神の箱を運ぼうとしていました。その道中、牛が神の箱をひっくり返しそうになってしまい、ウザという人が箱を倒すまいと触ってはいけないという神様の命令に背いて箱に触ってしまいます。この旧約の時代、イエス様の十字架による贖いのない時代はまだ神の赦しがなく、ウザは良いことをしたにもかかわらずそこで罪のため死んでしまいます。そしてそれをみたダビデは主の怒りを恐れ、自分の町に神の箱を持って来ず、オベデ・エドムという町に運びます。しかしこのオベデ・エドムが神さまによって祝福されたことが分ると、喜んで自分の町へ神の箱を運ぶことにします・・・あなたはこのダビデの姿をみてどう思いますか。決して素敵といえる行動ではありません。それだけでなく、ダビデはこのほかにもたくさん失敗をしてしまいます。しかし、ダビデは神様に愛された人でした。なぜそんなに愛されたのでしょうか。それは、自分が誤り道を外した時、大失敗した時にとった姿が素敵だったからです。彼は悪いことをした時、心から悔いて神様が示した元の場所に戻ることをしたのです。また、ダビデはサウル王に仕えていた頃、幾度となくサウル王から命を狙われます。そんな折、ダビデはサウル王を一突きで殺せる機会を与えられます。普通の人なら今しかないと相手を殺そうとするのではないのでしょうか。しかしダビデはサウルを神様が立てた王として手にかけることをしませんでした。そのようにダビデはどんな状況にあらうと神様に心を向け行動していました。ですから彼は神様から愛され、彼の前に敵はいませんでした。つまり、彼は素敵だったのです。

そして、これらのことはあなたにも言えることです。今、あなたは自分を素敵だと思いますか。また素敵と思うならどこが素敵なのでしょう。もし、自分を素敵と思えないなら、次のことを心に留めましょう。神様は心をみられる方で、心から悔いる者を赦される方です。あなたが失敗した時、道を外した時に向きを変えて出発できるかどうかを神様はみておられるのです。ですからあなたも何度失敗しても向きを変えて素敵になりましょう。そうすればあなたのその姿をみて、人々はあなたから学ぼうとし、あなたの周りの人々も素敵に変えられていくのです。

私たちがまっすぐな道を歩めるようになるために、イエス様はいくらむち打たれても何度も起き上がられました。私たちのために十字架の道を進まれ、神様に対する人々の嘆きをすべて引き受けられました。そして、キリストを見捨てるといふ十字架の贖いによってあなたは決して神様から見捨てられることがなくなりました。ルカ6:35でイエス様は「ただ、自分の敵を愛しなさい。」と伝えています。私たちは敵を前にしたとき、神様が計画されている道を歩むために訓練されるとき、時に挫折し、もうやれないと思うことがあります。しかしそんな時も神様は母のように語りかけ、支えてくださいます。ですからこれからは、どんなことがあっても神様の素晴らしさ、つまり、あなたが全ての人に敵わないといわれる部分＝素敵な部分をもって、神様とともに歩みましょう。（要約者：金光 瞳）